



勇壮な越生げやしと夜空を彩る花火の共演

越生まつり

おどせ

令和7年
7月26^土

山車の展示・巡行
15:00~21:00

27^日

神輿渡御
よさこい等各種イベント
山車巡行
6台の山車揃い・花火

13:00~15:30
13:00~17:00
17:00~21:00
19:10~20:00



越生町のマスコット
「うめりん」



越生まつり
詳しくはコチラ

主催 越生まつり実行委員会
後援 (一社)埼玉県物産観光協会
(一社)越生町観光協会・越生町商工会

【お問い合わせ】

■越生町産業観光課 ☎049-292-3121
■(一社)越生町観光協会 ☎049-292-1451



TOBU

池袋から越生まで
→約63分(乗り換え)

おどろき

越生まつり

越生の山車

越生囃子は、江戸神田囃子の流れをくみ、神田大橋流と小田原囃子若狭流の二つに分けられます。祭りの主役である6台の山車が曳き回され、山車と山車が会って繰り広げられる囃子の競演は見ごたえがあります。

新宿町



江戸時代後期の文政10年に、現在の八王子市上八日町でつくられた山車を、大正13年に購入。現在は、屋台型となっていますが、建造当初は、屋根をつらぬく一本柱を立て、柱の頂上の台座に人形を飾る形式の山車でした。屋根の上にのる、大きな竜の彫刻が見どころのひとつとなっています。

お囃子は、新宿町鼓吹連による神田大橋流。

上町



明治19年に東京の谷中初音町二丁目・上三崎町の山車として製作され、日暮里の諏方神社の祭礼で曳きまわされていたものを、大正8年に購入。欄間仕立ての囃子台、二重高欄の鉾台をそなえた江戸型の山車で、人形は、日暮里諏方神社を勧請した豊島左衛門尉経泰で、名工・古川長延の手になるものです。

お囃子は、上町囃子連による神田大橋流。

仲町



昭和29年に、東京神田の「だし鉄」と越生町上野の棟梁長谷竹松が共同で製作した江戸型の山車で、唐破風屋根の囃子台、二重高欄の鉾台、回り舞台を備えています。昭和28年まで所有していた大型の屋台は、もとは川越の志義町で曳かれていた踊り屋台で、山車の新調に先立ち、現在の入間市に売却され、扇町屋の愛宕神社祭礼などで活躍しています。

お囃子は、仲町囃子連による神田大橋流。

本町



大正8年に、山車製作の名工、東京の神田宮本町の亀甲斎清秀が製作した江戸型の山車で、唐破風屋根の囃子台、回り舞台をそなえています。人形は、日本の初代天皇と伝えられる神武天皇で、左手には金鶏のとまった弓を携えています。山車人形に加え、柴又帝釈天帝釈堂の彫刻を手がけた名工・石川信光による彫刻も見どころです。

お囃子は、本町親和会による神田大橋流。

黒岩町



明治27年に熊谷の鎌倉町で新調したと伝えられる山車を、明治42年に購入。唐破風屋根の囃子台に三重高欄の鉾台を備えた三輪の山車で、人形は、八坂神社の祭神である素戔鳴尊。鉾台の三高欄の三味線胴には、八塩折之酒を満たした酒甕など、素戔鳴尊の八坂大蛇退治にちなんだ彫刻がほどこされています。

お囃子は、黒岩町囃子連による小田原囃子若狭流。

河原町



昭和12年、明治時代から使用していた花山車の車台を利用して、神田の宮長が製作した江戸型の山車。囃子台は唐破風屋根で、建造当初から、人形をのせる予定がなかったため、前方の囃子台、後方の二重高欄の鉾台ともに、他町の山車に比べ、背の高いつくりとなっています。

お囃子は、和囃連による小田原囃子若狭流。

当番町

【お問い合わせ】

越生町産業観光課 ☎ 049-292-3121

越生町観光案内所 ☎ 049-292-6783

駐車場には限りがございますので、ご来場は公共交通機関をご利用ください

交通のご案内

